
上海コネクション2007

きりもんじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

上海コネクション2007

【Nコード】

N6050K

【作者名】

きりもんじ

【あらすじ】

2007年の義烏仕入れ旅日記です。今回は帰りに水郷烏鎮と朱家角を訪ねました。

高速バスで義烏へ

20071216

蘇州号、雑魚寝でいく。

新鑑真号と全く雰囲気は似ている。

同じくらいの大きさだ。

上海2年目の上陸だ。

南站汽車站（高速バスターミナル）から

義烏行き直通高速バスに乗る。

97元。乗ったバスはボロボロで運転席の

デジタル時計は10分も遅れている。

ずっとこのまま行くのだろうか。

重油の匂いが充満していて気分が悪くなりそう。

誰も文句を言わないのだろうか？

バスは料金所で料金を払って高速に入る。

できたばかりで、どこもかしこも真新しい。

ところが立ちションしている人がいる。

大きな荷物を置いてガードレールに腰掛けている人がいる。日本では考えられない！

いくつかの事故を見ながらガンガンぶっ飛ばして、約3時間、義烏に着いた。

三元里賓館、もう段小姐はいない。隣の羊肉屋に

行くと若主人が覚えていてくれた。うれしいものだ。
さあ早めに寝よう。ところがやはり11時過ぎた頃。

「マッサージ？」

「プヨンプヨン」（知らない）

今回は2度とかかってこなかった。

重い！

20071217

羊肉店で鶏炒飯をたのんだのに涼麺が出てきた。

やはり指差すか書いたほうがいい。

ゴージーションムーチャン
国際商貿城も

フーディエンイーチー
福田？期も通じない。

タクシーで相乗りするのはほんとに気分が悪い。

シートの背もたれに星期1（月曜日）とカバーに書いてある。
毎日なん曜日かよく分かっていると思う。が、

割り込み、クラクション、Uターン。なんでもありで危険
この上ない。センターラインオーバー。人は
信号や横断歩道に関係なくすいすいと渡る。

今年も同じ店で6000本注文した。

他の客が目を丸くしていた。

不良品の交換。^{プシン}不行できませんの一言。

重いリュックを担いでホテルに戻る。

鍵の調子が悪いので部屋を変更になった。

荷物は運びますと言うことだったが、いつまでたっても
持ってこない。もとの部屋に行くとそのまま荷物は置いてある。
重い！多分重くてもてなかったのだ。

泥んこターミナル

20071218

杭州経由で烏鎮へ。杭州は何かと気をつけなければいけない。

南站から北站へ。ところが発音が悪くどこかの名所へ行こうとする。

待て待て、北站だ。紙に書く。ところが烏鎮へは東站からだった。

結局烏鎮行きに乗り遅れて2時間待ち。

相性の悪い町とはあるもので杭州は上海並みに物価も高く、
あちこち掘り返していてほこりっぽい。

杭州東站から烏鎮間では1時間あまり。

座席は壊れているしカーブは転がりそうだし、
やっとの思いで曇天の烏鎮に着いた。

泥んこのバスターミナル。着くと人々が前から

バスを押して止めていた。

下りるとわいわい声をかけてくる。さっぱり分らない。

ペンション風の旅館に泊まった。見栄えは若者向けのおしゃれな
ペンションなのだが、やはりそこは中国、

隣のテレビはまる聞こえ。熱水も出なかった。

ま、いいか。「ランボー怒りのアフガン」を見て寝る。

烏鎮

20071219

蘭州拉麺で蛋拉麺をたのんだら玉子焼きが別に出てきた。それに乗っけて食べる。ところ変れば変るものだ。炒飯は皿からはみ出るほどの特盛りだった。

景観区に何とか入ろうとあちこち見て回ったが、どこのゲートも係員が見張っている。土地の人は自由に出入りしているのに。

諦めて100元払って観光券を買う。
8箇所の博物館の入場券も一緒だ。

明清時代の建物石畳が続く。染物工房。漢方薬工房。
古銭館。百床館や双橋等。水郷の水も緩やかでとても風情がある。逢源双橋には何かいわれがありそうだ。

由緒ありそうなお寺があって、古い舞台で誰かが民謡を歌っている。
幾人かの人が聞き入っているがどうも地元の人らしい。

影絵館などもあって今でも催しがあるみたいだ。
庶民の憩いの場として今も色々な芸能をやっているのだ。

景観区内でも人々は普通に生活をいている。
時折中国人の団体が行く。シーズン中はもっと多いはずだ。

日が暮れて子供たちが食べ物に群れている。あったかそうだ。
おでんである。串にさしたミニおでん。美味しかった。

明堂ユース

20071220

6時おき。上海行きのバスに乗る。

遅れてきた運転手がさらに遅れてきたおばさんを怒っている。

やっと出発。しばらく行くと運転手の携帯がなって停車。
鶏と荷物を路上で受け取る。

運転手も助手もタバコはスパスパ、携帯は掛けっぱなし。
なんといい加減なバスだ。ついに反対車線を爆走して。
10数台抜いてしまった。

途中の大きな町で40分停車。もちろん暖房などはない。
体はすっかり冷え切ってしまった。やっと出発。

上海ナンチャンの手前でほとんど降りてしまった。

一応聞いてみた。

「上海^{ナンチャン}南站行くよね？」

「うん」と若者はうなづいた。

とにかく無事到着。腹ごしらえを済ませて東台路骨董街に向かう。

するとあのおじさんに再会した。抱き合って喜んだがすぐに、

「今日は何を買うのか？」

と聞くので、眼鏡を直しに来たと言った。

明堂ユースに泊まることにした。後で船長ユースにも行って見たが、
シングル400元、ドミトリ70元だった。

明堂シングル180元。まだましか？

ところが部屋は別だがトイレとシャワーは隣と共有だった。

外灘まで歩く。物乞いの少女が信号待ちを追ってくる。

いざりながら台車を押してくる。声をかけられる手前で信号が変った。

気付いてはいたが無視して足早にわたる。

帰りに又出くわしそうになった。小銭を用意して、

通りがかりにずっと缶に放り入れた。上海福州路にて。

朱家角

20071221

今日は有名な水郷、朱家角へ行くことにする。

体育館前の旅遊バス乗り場から周遊券つきで往復80元。

霧雨の中、国道で急に下ろされて朱家角に着いた。

朱家角も烏鎮のように景区になっていて券がないとは入れない。
各ポイントで穴を開けてもらうのも同じだ。

明清時代の建物が3メートルほどの石畳の両側に軒を連ねていて、
とても風情がある。中でも北大街というところには小さな店舗が
びっしりと連なっていて活気がある。

絹、綿、布団、漢方、砂糖、鶏、民芸、木彫り、染物、などなど。
なべの蓋に彫り物をしている。じっと見つめているとそれらしく
気合を込めて彫っているのが分かる。

職人氣質というのは多分どこでも共通していると思われる。
目が合うと、うんうんと共にうなづいて微笑んだ。

ゴンドラのような木船が行きかい、烏鎮よりはこじんまりとしていて
放生橋からの眺めは最高、これぞ水郷という感じなのだが、

次々と金魚や亀を売りにくるのに閉口する。

生き物を水に帰すという橋なので彼らも諦めない。

食堂でワンタンを食べた特大餃子が8個も入っていておなかいっぱい

い。

8元（120円）。散髪して10元（150円）。

ゆっくりとくつろいで帰りのバス停を探す。なかなか見つからない。そのはずだバス停の標示は林の中に倒れていた。

時間前なのにバスが来た。あちこちから何人か走ってくる。

そのままバスはすぐ発車した。多分乗り遅れた人がいると思われる。

これだから油断はできない。それが中国だ。
文句を言っても始まらない。それが中国だ。

上海博物館

20071222

雨だ。上海博物館に行くことにした。

明堂ユースから歩いて20分の所にある。

地上5階建てくらいの大きな建物で、吹き抜けになっていて京大病院か平和堂かといった造りだ。

団体とか観光客が多く、レンブラント展もやってはいたが年配者が多かった。

トイレはとても綺麗で快適。

古銭、陶器、石像、民族服、青銅器。

ゆっくりと見て周った。

昼食に青菜米粉を食べて蚤の市で有名な瀋陽礼品市場を目指したが、その広大なエリアは取り壊されて巨大な空間になっていた。

南京西路に出ると恒隆広場があった。

何のことはない高級ブランド専門店街で

庶民には全くなじみのないところだ。

明堂に戻る。この界隈は江陰路といって

金魚、ペット、こおろぎなどを売る店が多い。

人民広場の地下街には小さな店舗がぎっしりと

集まっ
ていて、
義烏の
木猫も
ここで
見つけ
た。
こんな
所で売
ってる
んだ。

ひたすら歩く

20071223

今日はひたすら上海市内を歩き回ることにした。

淮海中路をひたすら西へ向かう。泰康路芸術街、大公館、上海図書館を過ぎるとやっと宋宅があった。

古北路へ向かう。巨大な国際トレードセンターを過ぎたあたりから、クラブえれガンと、まーさじとか変なひらがな文字が目立ってきた。食事処や赤提灯があったりして、このあたりは日本人が多いのがよく分かる。

歩き疲れておなかが痛くなってきた。なかなか公衆便所が見つからない。中山公園へ向かう。やっと見つけたトイレ。日曜のせいか服務台はいない。そのまま身障者用に入ると、

洋式でこぎれいだったがやはり手紙はなかった。ティッシュは必ずもつとくこと、これ鉄則。

一息ついて南京西路を東進。呉江路美食街を通りかかる。全ての店に行列ができている。ここに来るときはまずひたすら並ぶことだ。

そのまま明堂に向かう実に6時間。20km歩いた。あーしんど！

文廟路界わい

20071224

どうも数を間違えたようだ。去年3600本だったのをどこでどう間違えたのか6000本。重いはずだ。

とにかく重い理由が分かった。今日は上海駅と国際埠頭午後から外灘、文廟路に行ってみよう。

上海駅のバスターミナルは駅裏にあって西側から遠回りしていった。あとで地下から行けばすぐ地下鉄につながっていることが分かった。駅の周りにはあちこち工事中で世界博までは大変だと思える。

クリスマスイブなのに南京路は静かで。有名な和平飯店などはもう外壁がボロボロで建て直している。どこもかしこも工事中。国際埠頭もまさに工事中であと3年で上海は大きく衣替えをするだろう。

豫園を抜けて文廟路へ向かう。100年前の竹下通りという雰囲気です。少年少女でいっぱいだった。12円のタイヤキを食べながら、40円の串勝をほおぼりながらゆっくりと歩いた。

そのまま旧市街に迷い込んでくねくねと食材市場を歩く。なまず、鯉、フナ、うなぎ、かに、えびなどなど。

新鮮で豊富でとても安い。もうこのような場所もなくなっていくのか？

靴磨き

20071225

8時半に明堂ユースを出る。押金100元が返ってきた。

早速タクシーに乗り20円で港まで行けるかと聞いたたら、30元はかかるという。

何のことはない20分で16元でついた。20元払うとつりを渡さない。

なんて奴だ。文句を言ううまくし立ててくる。何もいわずに乗れば良かった。

中国銀行で200元を日本円に換えようと思ったら、1000円札が2枚

しかないという。結局2000円分だけ両替して近くでラーメンでも食べようと

歩き出したとたん、靴磨きのおばちゃんが近寄ってきてしつこく磨けと勧める。

ふと見ると靴に白い磨き粉がついている。コラツと振りほどいてラーメン屋に入った。鶏蛋ラーメン5元、量が多くて途中で汁を足してくれるものだから、もう十分腹いっぱいになった。

船はガラガラ。だが港使用量22元はきっちり取られた。

展望室にて

20071227

丸一日船の上である。黄海はゆれにゆれた。げえげえあげながら、中国の将来を考えた。

2008年北京オリンピック。2010年上海万博。

までは成長は拡大し続けるだろうが、その後はどうなるか？

ケータイが大普及している。個人、人脈マンツーマンのこの国では最も有効なツールなのかも？

10人に一人でも1億3千万個。日本の人口を抜いている。まだまだこれからだということはよく分かる。

車も家電も建築もとなると相当の前代未聞の大成長と、その負の遺産も前代未聞になってしまう。

省エネ、環境、公害対策などの最先端技術、これは日本の得意分野。人間のほんとの幸せとはをもう一度問い直す時期かも知れない。

展望室でまどろむ。遠くに船影が見えたが近づくまでに相当時間がかかる。かつてこの日本海を、

ロシアのバルチック艦隊が通過した。船影を確認してから相当の時間を掛けて戦いは始まったと思われる。

今も昔もあいも変わらず世界の各地で殺戮が続いている。

—
完
—

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6050k/>

上海コネクション2007

2010年10月9日14時35分発行